

# オープンアクセス方針の採択状況 : 徳島大学の事例

徳島大学  
学術情報部図書情報課  
雑誌情報係  
山本 豪

# 国内におけるオープンアクセス方針策定状況

※2016.04頃まで

- |            |                        |
|------------|------------------------|
| 2015.04.28 | 京都大学オープンアクセス方針         |
| 2015.11.19 | 筑波大学オープンアクセス方針         |
| 2015.12.17 | 国際日本文化研究センターオープンアクセス方針 |
| 2016.01.19 | 九州大学オープンアクセス方針         |
| 2016.01.19 | 徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針 |
| 2016.03.10 | 千葉大学オープンアクセス方針         |
| 2016.04.12 | 東京歯科大学オープンアクセス方針       |
| 2016.04.19 | 名古屋大学オープンアクセスポリシー      |

# 『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』 策定の経緯(1)

2015.03

☆『我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について』(内閣府)

「公的研究資金による研究成果(論文、研究データ等)の利活用促進を

拡大することを我が国のオープンサイエンス推進の基本姿勢とする」

「公的研究資金による研究成果のうち、論文及び論文のエビデンスとしての

研究データについては、原則公開とし、その他研究開発成果としての

研究データについても可能な範囲で公開することが望ましい」

「各省庁、資金配分機関、大学・研究機関等のステークホルダーが

オープンサイエンスの実施の責任を果たし、

オープンサイエンスの実施方針及び実施計画を策定する」

↓

☆『第5期科学技術基本計画に向けた中間取りまとめ』(2015.05)でも同様の姿勢

↓

☆「早急に対応しなければ！」(本学附属図書館長)

# 『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』 策定の経緯(2)

## 2015.07～10初旬

☆上層部(学長, 理事等)や関連部署(IR室, 研究支援・産官学連携センター等)への情報提供(国の方針や他大学の事例)

・本学においては当面オープンアクセスについて検討する

・オープンアクセス方針については研究戦略室で検討し, 役員会・評議会で協議し策定を目指す

・教員からの論文提出を促進するため, リポジトリとEDB(教育・研究者情報データベース)の連携を進める

・学内教員のオープンアクセスについての意識を高めるため, 講演会やシンポジウムの開催について, 附属図書館を中心に準備を進める

## 2015.10中旬

☆研究戦略室会議で徳島大学の研究戦略としてオープンサイエンスの考え方が承認

☆オープンアクセス方針の文案を作成するよう図書館に依頼



図書館で文案作成, 産学連携・研究推進課で議題提出

# 『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』 策定の経緯(3)

**2015.11**

☆学長企画会議に最初の方針案が提出

**2015.12**

☆教職員向けシンポジウム『オープンアクセスで拓く徳島大学の可能性』開催

**2016.01**

☆役員会及び教育研究評議会で方針案の審議・承認

**2016.01.19**

☆『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』学長裁定

# 『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』 の特徴

## 名称

「における」「に関する」

## 定義

「運営費交付金等の公的資金を活用することにより得られた研究成果」と明記

## 適用除外

「著作権」だけでなく、「知的財産権の実施」を明記

## その他

「必要事項は関係者間で協議して定める」がない

徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針

平成28年1月19日

学長裁定

(趣旨)

- 1 徳島大学は、学術情報の公表による学術研究のさらなる発展とイノベーションの創出、研究成果に関する透明性の確保と質の保証等を目的として、オープンアクセスに関する方針を次のように定める。

(定義)

- 2 本方針において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。
  - (1) オープンアクセス 教職員が運営費交付金等の公的資金を活用することにより得られた研究成果に対する学内外からの自由な閲覧を保証すること。
  - (2) 研究成果 出版社、学会及び学内各部署が発行する学術雑誌等に掲載された本学教職員の学術論文等

(研究成果公開の方法)

- 3 徳島大学は、教職員の研究成果を、徳島大学機関リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。

(リポジトリへの登録・公開等)

- 4 研究成果のリポジトリへの登録・公開、公開後のデータ利用等に関する事項は、「徳島大学機関リポジトリ運用指針」に基づき取り扱う。

(適用除外)

- 5 次に掲げる研究成果は、本方針を適用しない。
  - (1) 著作権及び知的財産権の実施等の理由により公開が不適切であると判断されるもの
  - (2) 本方針制定前に発表されたもの

# 『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』 策定～これまでの動き

**2016.04**

☆科研費報告書の提出時期にあわせ、パンフレット資料の作成・配布

**2016.06**

☆『徳島大学におけるオープンアクセスに関する方針』の学長名による再通知

**2016.07～**

☆図書館長によるオープンアクセス説明会

→単独開催，教授会等に出向いての開催：10月までで計12回，308名の参加者

# 今後に関する担当者としての雑感

☆OA方針が目指すものは、研究成果の原則100%OA化である

☆OA方針が示すものは、あくまで原則と例外の存在のみである



## 『方針』実質化への課題

・情報・資料の整備: OAのメリット, OAの種類, GoldOAの扱い, 教職員とは誰か, 研究成果とは何か, 公開不適切の具体例, 手続き方法(登録申請, 共著者同意, 出版社確認), どんなものがどんな風にOA化可能か...etc.

→各ステークホルダーにとって必要な情報を, 受け取りやすい形で整備する必要がある  
(説明会, オープンアクセス方針実施要領, FAQ, その他マニュアル等)

・手順・システムの改善: 0ベースの足し算では絶対に100%には近づかない

→100%ベースの引き算で考えるなら, 手順やシステムを考え直す必要がある  
(EDBとの連携, リポジトリ登録システム導入, その他既存の手続の合理化)